

令和5年度 第1回 静岡県立浜松湖南高等学校 学校運営協議会議事録

- 1 日時 令和5年5月8日（月）
- 2 場所 静岡県立浜松湖南高等学校 応接室
- 3 委員 岩成 善久（令和4年度 P T A会長）  
松本 雅美（ムンド デ アレグリア学校 理事長兼校長）  
坂田 雄章（元自治会副会長・元中学校長）  
杉山 哲也（河合塾浜松校 校舎運営チームチーフ）  
小杉 大輔（静岡文化芸術大学教授）  
渥美 和弘（浜松市西区雄踏協働センター所長）
- 4 内容
  - (1) 校長挨拶（学校運営委員任命）
  - (2) 自己紹介
  - (3) 学校の概要・学校経営方針について
  - (4) 教育活動・生徒の状況について
  - (5) 授業見学
  - (6) 質疑応答・意見交換
  - (7) 諸連絡
- 5 議事録（要点）
  - (1) 校長挨拶・自己紹介  
校長より委員の任命、学校運営協議会の趣旨を説明。各委員より自己紹介を行った。
  - (2) 会長・副会長の選出  
立候補がなかったため、会長に岩成善久様、副会長に坂田雄章様を推薦。全員異議なく承認された。
  - (3) 学校の概要・学校経営方針・教育活動・生徒の状況について
    - (ア) 令和4年度「学校自己評価」「学校関係者評価」結果報告  
副校長より令和4年度「学校自己評価」および「学校関係者評価」結果について報告をした。
    - (イ) 令和4年度「生徒・保護者アンケート」結果報告  
副校長より令和4年度「生徒・保護者アンケート」結果について報告をした。
      - アンケートの4「生徒は充実した楽しい生活を送っている」の設問には「充実した」と「楽しい」の2つの質問が含まれているためふさわしくない、との指摘があった。

(ウ) 令和5年度「学校経営計画」

校長より学校経営計画および目指す学校像について説明した。

- 本年度の取組のアの成果目標「授業でICTが活用されている」生徒80%の意味を問う質問、アドミッションポリシーの具現化の柱についての質問などがあった。

(エ) オンリーワンハイスクール

教務課長より1年間の特徴的な取組（国際理解研修、被災地視察研修など）について報告をした。

(オ) 令和4年度「部活動」結果報告

教頭より令和4年度部活動結果（県大会上位）について報告をした。

(カ) 進路実績報告

進路課長より過去3年間の進路実績について報告をした。

(4) 6限授業見学

(5) 質疑応答・意見交換

- 落ち着いて学校生活を送ることができる環境が整っていると感じる。地元の小中学校と交流できる機会があると良い。
- 40周年を迎え十分魅力的な学校だと感じる。今持っているものを最大限活用し深化して行ってほしい。
- 真面目で大人しい生徒が多い。挨拶はしっかりしてくれる。行事を活用するなどして、先生も生徒も元気で仲良くやって欲しい。
- 大学進学に関して湖南の生徒は活発だと感じる。今の子どもたちは元気の発揮の仕方は場を選んでいる。
- 進路に関して浜松市内の進学校として一定の地位を築いており、実績も伸びている。英語科があるので文系が強い印象があるが、理系でも実績が出ており、このことをアピールする必要がある。
- 落ち着いて学習、部活動ができる環境の学校である。多様性を認めてくれる環境であることが重視され、安心して生活できる風潮があることは大事。
- 高齢者のスマホ講座や親子料理教室、英会話教室などでお世話になった。生徒の知識を活用した活動をこれからも続けて欲しい。うまくいくこともいかないことも経験して欲しい。
- 生徒たちに学校の歴史を知ること誇りを感じ、地域の発展に貢献していただいたい。

(6) 諸連絡

今年度は学期に1回ずつ、あと2回開催する予定であることを連絡した。